

俳句部門

最優秀賞

雨のやむ 分校跡に 葛の花

堀田 久美子

優秀賞

荷替場に 馬の臭いの すすき する芒

垣田 和美

湖底なる 市野々宿に 秋の風

加藤 順二郎

佳作

いにしえの 黒沢峠 くずの花

斉藤 ふた子

すすき 芒野を 抜けて湖面の 広がれり

阿部 葉子

冷や汁は イザベラバードも 召したかな 阿部 米美

朝霧を 分けて踏み入る 峠道

遠藤 敬治

みなそこ 水無底の 橋を渡りて 秋近し

小林 新太郎

川柳部門

優秀賞

負けたわよ 古木の前で 写す腹

高橋 良子

佳作

ゆううつだなあゝ 終わってみれば ああ最高

伊藤 さおり

峠越え なまった体に 鞭を打つ

高橋 愛

大銀杏 未来に向けて 枝を張り

酒井 修一

応募作品一覧

- ・ ふみしめて いにしえを知る 石畳
- ・ 苔むす敷石 歩く時 ふと思うイザベラの心
- ・ 石だたみ 歩いて昔の 苦勞しる
- ・ 生き年を 振り返り歩む 苔の石段
- ・ 秋雨を 玉にゆらせて 野の葉かな
- ・ 先人の 苦勞をつなぐ もぐりばし
- ・ 敷石の 青苔踏むや 越後道
- ・ 古の いにしえ すすぎがきそう 石畳
- ・ 市野々の いにし 古え伝ふ 風の音
- ・ イザベラも 宿場の夢も のみ込んで 見守り続ける
大いちょう
- ・ イザベラの ロマンをたどる すすきの路
- ・ 青ごけに いにしえ忍ぶ 石畳
- ・ 夏枯れの 天空突きさす 大銀杏
- ・ 廃屋に 松青々と なごり蝉 なら
- ・ 檜林 石畳で 黒沢に
- ・ 西郷の 通りし道を 我れ歩く
- ・ 石段の こけむす道に 思いはせ
- ・ ウワズミザクラ 春には目を 秋には腹を 喜ばす

- ・その昔 わらじが語った 峠越え
- ・おみなえし 顔にやさしい 風送る
- ・石だたみ 苦勞の半里 とうげ道
- ・イザベラも 踏みし峠石 いま守る
- ・いにしえの 声がささやく 苔の石
- ・白子沢 歩く道すじ 萩の花
- ・先人の 跡たどる 石だたみ 今はコケむす
- ・峠道 先人達の 道しるべ
- ・ダムにより 移転やむなし 守り木よ
- ・先人の 苦勞と共に あきあかね
- ・敷石の こけむすあおさ 時しのぶ
- ・いにしえの 十三峠 今日あゆみ
- ・敷石に ひときわさえる 緑苔
- ・あしがいたかったからつかれました
- ・敷石道 母親より速し 幼子の
おや
- ・手にはこおろぎ 黒沢道
- ・ダム湖面 静かに見守る 大イチョウ
- ・せみしぐれ 父と歩きし 黒沢峠
- ・深呼吸 マイナスイオンで 体内清掃
- ・時を経て 歩み継がれる イザベラの道

- ・あと1.4 km けわしき道は 遠きなり
- ・やまのぼり しぜんとふれあい たのしいな
- ・とりかぶと こわさしらずに 手に持った
- ・桜みち ダムの未来に 夢を馳せ
- ・子とともに 歩く峠の 秋の草
- ・山登り いろいろ見つけ 大発見
- ・年超えて 街道にぎわす ウォーキング
- ・わらじ無く 石畳避け 歩く僕
- ・秋彼岸 あけびあげたく とうげみち
- ・ほおほ伝う 風さわやか 心あらう
- ・霧晴れて トリカブト咲く 峠道
- ・古き人の 敷石はこびの 労おもう
- ・何思うて 水没の村飛ぶ オニヤンマ
- ・市野々の 新たにうまるる 出生の橋
- ・雨あがり 皆んなで歩く 石だたみ
- 古木をながめ 故人をしのぶ
- ・子供達と 遊んだふるさと 湖の底
- ・ふるさとの 昔をしのぶ 峠かな
- ・黒沢峠 もみじの時期に もう一度
- ・みどり浴 沢音響きて 秋早し

- ・石あけび 青光して 秋を待つ
- ・山の道 みんなと歩き 楽しいな
- ・古えの いにし 足音をきく 石だたみ
- ・黒沢の いにしえ人の 通り道
- ・つゆくさの ほのかにかほる あまいつゆ
- ・いにしえの 足音きざむ 峠石
- ・こもれ日に すゝき影さす 峠道
- ・雨あがり 緑が映える 峠道
- ・峠道 今も昔も すすきゆれ
- ・道ばたの 植物楽し 歴史より
- ・石だたみ 歩むれきしに せみしぐれ
- ・敷石で 皆一緒に つるりんこ
- ・苔むしる 黒沢峠に 秋光る
- ・石畳 苔語り来る 深き山
- ・万葉の 古道の響き 目をさます
- ・ダム完成 沈むふる里 見て涙する
- ・とりかぶと きせつふかまり いろそまる
- ・峠道 苔ふみつつ イザベラバード
- ・栗落ちて 歴史街道 雨あがる
- ・おとこえし たずねあるきし 黒沢路

- ・ いにしへの 歴史辿れば 石だたみ
- ・ 香り山 黒沢峠に 森林浴
- ・ 妻と供に 四季の道 共に歩こう とも白髪まで
- ・ いにしへの 秋風かぜを起して 敷石道
- ・ いにしへの 思いをはせる 石畳
- ・ 黒沢峠敷石道 先人に頭下げる
- ・ 初秋の 風が香れば 歩き頃
- ・ いづるぎの 橋がつないだ 歴史道みち
- ・ 転んでも つかまえたバツタ はなさない
- ・ 峠ごえ 七十まぢか 完走し
- ・ いが落ちる 峠の石に 秋来たる
- ・ ゴール時に 目に入っただのは かきこおり
- ・ 市野々に 新しき日 ダムの水
- ・ 山の中 あけびやくりを 発見だ
- ・ 峠越へ 踏みて学ぶ 歴史道
- ・ 紅葉もみじ踏み 桜踏み越え 大銀杏おおいちよう
- ・ ひと休み 一里杭塚 秋の草
- ・ 雨あがり 鈴の音一二三 石の道
- ・ 山中も きけんがいつぱい きをつけて
- ・ やまのぼり やつとあるいて ゴールいん

- ・トリカブト 腹でにやにや 名儀変え
- ・石畳 先人の苦勞 いまいずこ
- ・石畳 老父と過ぐす 夏の日
- ・石だたみ 昔をしのび 今感謝
- ・こけはえた 石段ふみしめ 昔しのぶ
- ・こんな所で 出会うと思わなかった あんにんの味
- ・ほつとした つえの上に 赤とんぼ
- ・先頭を やさしく迎える すすきかな
- ・涼風と こけの青さに 足とられ
- ・歴史みち 栗をけりけり 友たちと
- ・三千六百段 敷石道 地に足がついていた力
- ・山のみち すべつてすべつて たいへんだ
- ・せみ鳴くや 黒沢峠の 石だたみ
- ・敷石や 偲びつ歩く いにしえを
- ・せみが鳴く 昔をしのぶ 石だたみ
- ・ひと冬を 越えて今年も 生きていく

田舎暮しの 春の恋歌

- ・生まれ出る 新たな伝説 出生の橋
- ・移転地で ダムを見守る 銀杏の木
- ・石だたみ 私にすれば すべり台

・ 十三峠 歴史の重み 心ちよく

・ 先人の 苦勞しのぶや 敷石道

・ 市野々の 先人の想い 後生へ

・ 市野々の 湖底に沈む すすき穂

何を想いて移りし事か

・ 峠道 おつとすべった 石だたみ

・ 小国にて 荒川流れ 止めんとぞ

喜び悲し 灯に唄う